

第2章 長期的な目標



本県の健全で恵み豊かな環境を維持しつつ、環境への負荷の少ない持続的に発展することができる社会の構築を目指し、21世紀半ばを展望した新たな長期的な目標（将来像）を設定します。

- I 新たなエネルギーが普及した自立分散型の低炭素社会づくり
- II 限りある資源を大切に作る循環型社会づくり
- III 恵み豊かなみどりや川に彩られ、生物の多様性に富んだ自然共生社会づくり
- IV 安心・安全な環境保全型社会づくり
- V 環境の保全・創造に向けて各主体が取り組む協働社会づくり

I 新たなエネルギーが普及した自立分散型の低炭素社会づくり

再生可能エネルギー*や水素エネルギー*の普及など分散型のエネルギー利用が進むとともに、省エネルギーの進んだ環境にやさしい生活や事業活動が普及し、低炭素な社会となっています。

温室効果ガス*の増加による地球温暖化は、私たちの日々の活動全てが大きく関係しています。その影響は、私たちだけでなく、未来の子供たちにまで長く続くことになります。

地球温暖化の進行には、再生可能エネルギーや水素エネルギーの活用、省エネルギー対策の推進など多くの知恵と様々な手段を用い、立ち向かっていかなければなりません。

再生可能エネルギーや水素エネルギーなど地域で使うエネルギーを地域で創り出す、分散型のエネルギー利用を推進するとともに、私たちのライフスタイル・ビジネススタイルを見直し、エネルギーを浪費しない、温室効果ガスの排出の少ない自立分散型の低炭素社会*を築いていきます。

II 限りある資源を大切に作る循環型社会づくり

廃棄物の3R*（発生抑制「リデュース」、再使用「リユース」、再生利用「リサイクル」）が徹底され、ごみの減量化や再資源化が進んだ、限りある資源を大切に作る社会となっています。

私たちは、自然界から資源を採取・利用し、不要となった様々な物質を廃棄物として自然界へ排出することによって社会経済活動を行い、その恩恵を受けてきました。

将来の世代の人々もその恩恵を受けられるよう、限りある資源を生かし、県民や事業者、行政が一体となって廃棄物の発生抑制や資源の再使用及び再生利用を進め、環境負荷の少ない健全な循環型社会を築いていきます。

III 恵み豊かなみどりや川に彩られ、生物の多様性に富んだ自然共生社会づくり

保全や再生された身近な緑と川に彩られるとともに、森林が適正に整備・保全され、多くの県民が生物の多様性に富んだ自然環境に親しんでいます。

自然環境の中で、植物が光合成によって酸素を生み出すとともに、大地の水分を蒸散し雨を降らせます。生物が互いに影響しあうことなどによって多様な生態系*がつくられています。その生態系の中には様々な動植物が暮らし、それぞれの動植物種の個体は遺伝的に差異があり進化の源となっています。このような生物多様性*により、私たちは、食料や水、木材や燃料、薬品の原料など様々な恩恵を受けています。

緑や川に代表される本県の豊かな自然環境は、人間の様々な活動により大きく失われてきました。

一度失われた自然環境を元の姿に戻すには、多くのコストと時間を要します。このため、今残っている貴重な自然環境を保全することが何よりも大切です。さらに、失われた緑を再生し、本県が日本一の面積割合を誇る河川を私たちの力で保全し、再生していかなくてはなりません。

生物の多様性に富んだ本県の豊かな自然環境を良好な状態に保ち、自然と共生した社会を築いていきます。

IV 安心・安全な環境保全型社会づくり

きれいな大気や水に恵まれ、環境負荷の少ない安心で安全な社会となっています。

私たちは、大気、水、土壌、地盤といった環境を形成している基本要素に対し、人間の活動が与えている環境への負荷を最小限とし、自然の持つ再生能力や浄化能力の範囲内に収まるようにしなければなりません。

人間の活動による環境への負荷を持続的に自然の中で吸収・浄化し、安心・安全な社会環境を将来の世代の人々に、より豊かなものとして引き継いでいきます。

V 環境の保全・創造に向けて各主体が取り組む協働社会づくり

県民、市民団体、企業、行政が、各地域において、それぞれの役割を主体的かつ積極的に担いながら、一体となって環境の保全・創造に取り組んでいます。

環境問題は、都市・生活型公害のような身近なことから地球環境まで幅広く存在しています。これらは、県民、市民団体、企業、行政など社会を構成する全ての主体が原因者であり、被害者となっています。各主体が環境問題に対して正しい理解と知識を持ち、環境に配慮した行動を実践していくことが必要です。

また、環境問題は複雑で多様化し、国際的な広がりを持つものも多くなっています。行政には、国際的な視野に立ち、連携を進めることが求められています。

それぞれの主体が連携・協働し、低炭素社会*・循環型社会・自然共生社会・環境保全型社会を目指して、地域の中で環境の保全・創造に取り組み、持続可能な社会を築いていきます。